

9. 平面計画の特色

- 複合化のメリットを最大限に計画
- ・ エントランス、中庭を建物中央に配置し、それらを起点に各エリア(保育所、児童発達支援センター)を計画することで、わかりやすい動線、ゾーニングを計画しています。
- ・ ホール、遊戯室、テラス、中庭を一直線に配置することで、上下階も含め見通しがよく、各エリアの子どもや保護者の交流を促す計画としています。

- ・施設中央に車寄せを備えたエントランスを配置した分かりやすい計画
- ・事務室をエントランスや階段、エレベーターに近接して設け、視線が行きとどきやすい配置

エントランス・事務室

- ・指導訓練室は避難しやすく、所庭に出やすい1階に配置
- ・遊戯室は利用率が高いためエリアの中心に設置
- ・遊戯室と中庭は一体的に利用可能

通所部門・遊戯室

- ・ 保育所、児童発達支援センターの管理諸室を共有化(事務室、調理室、エントランス、所庭)することで、建物全体をコンパクトに計画しています。
- ・ 病児保育室への独立した動線を確保します。
- ・ 保育所の低年齢児(0~2歳)、通所部門は1階に配置し、避難しやすい計画にしています。
- ・ 地域との交流を想定し、オープンスペースとの連動性や管理のしやすさを工夫したホール・所庭の一体的利用が可能な配置計画をしています。

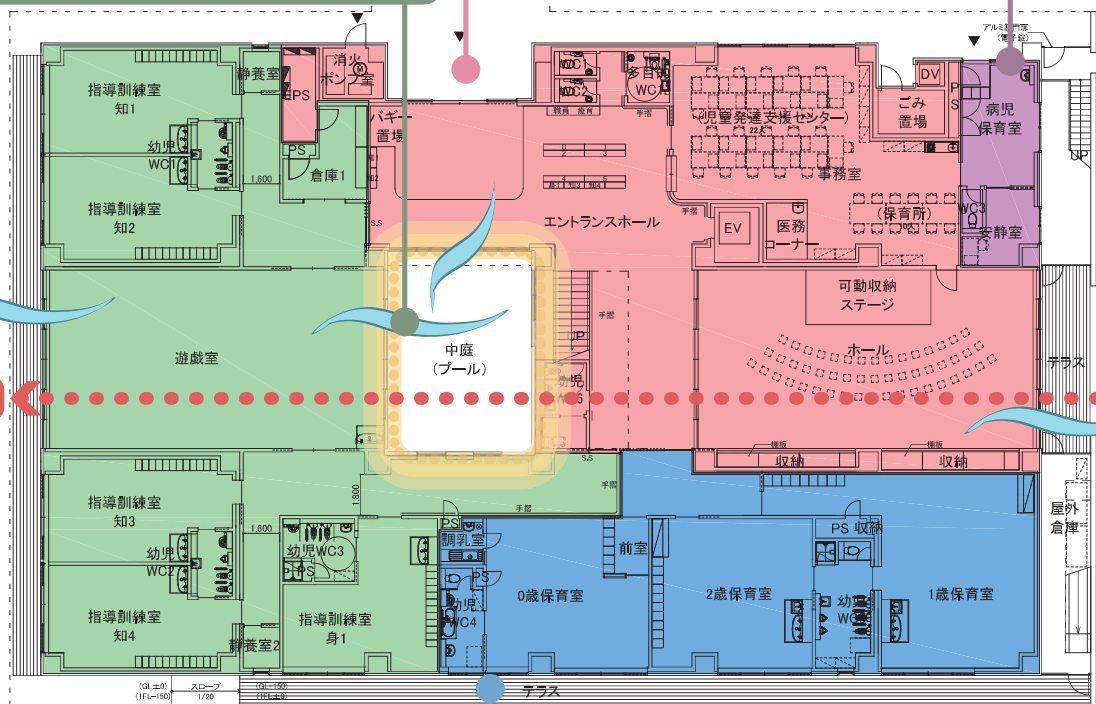
- ・専用入口により、他の子どもへの感染を防ぐ
- ・事務室と近接し、職員動線を最小化

病児保育室

駐車場・エントランスアプローチ

所庭

交流の軸



- ・低年齢児保育室(0~2歳児)は避難しやすく、所庭に出やすい1階に配置
 - ・日当たりのよい南東向きにテラスを設置
 - ・成長過程に合わせたおむつ・トイレエリアを設置
- ### 保育所(0~2歳児)

- ・雨天でも子ども達が遊べるスペースを確保
 - ・メイン階段に面して広く開放し、交流ラウンジとしても利用
 - ・地域との交流を想定し、所庭との一体利用が可能
- ### ホール

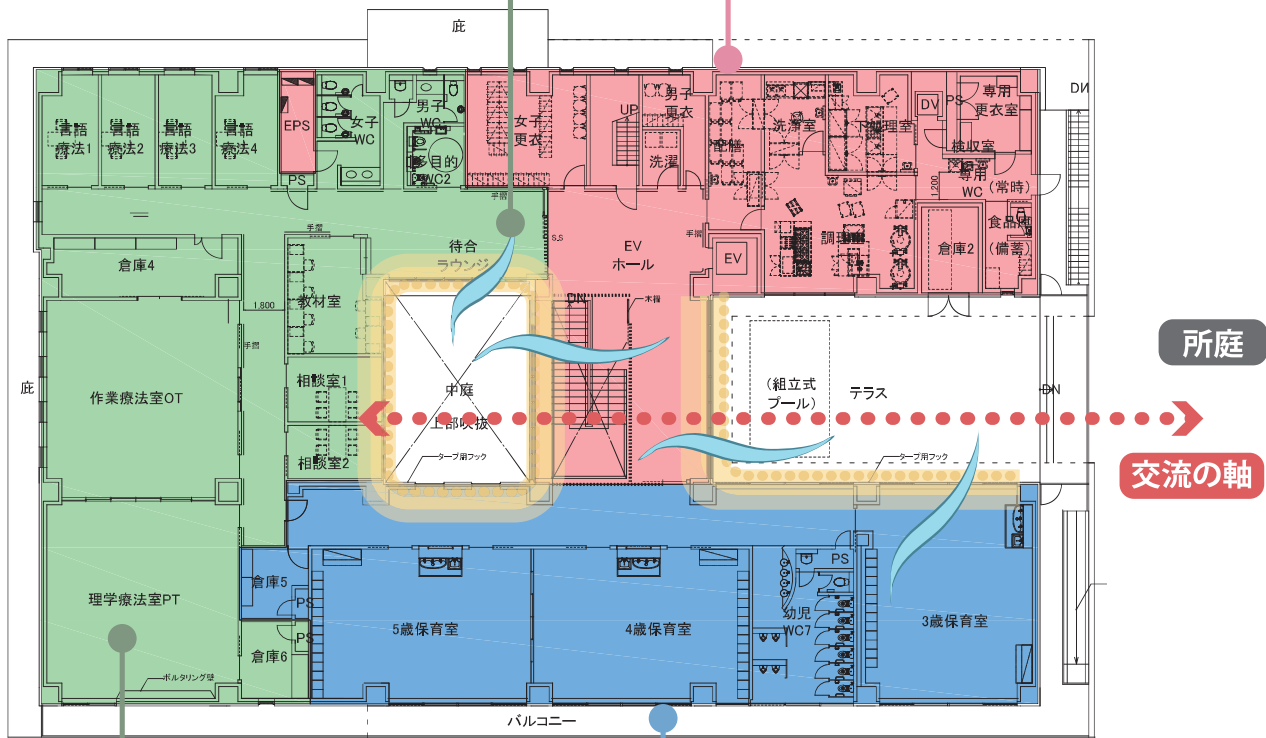
1階平面図

- ・中庭に面し、明るく開放感を感じられる待合ラウンジ
- ・エレベーターホールとの間に間仕切りを設置し、階段等へ子どもだけで近づく危険を回避

療育部門・待合ラウンジ

- ・衛生区域を分離し安全な食事提供を行う
- ・子ども達がテラス側から調理の様子を見学することのできるディスプレイ型の調理室を設置し食育につなげる

調理室



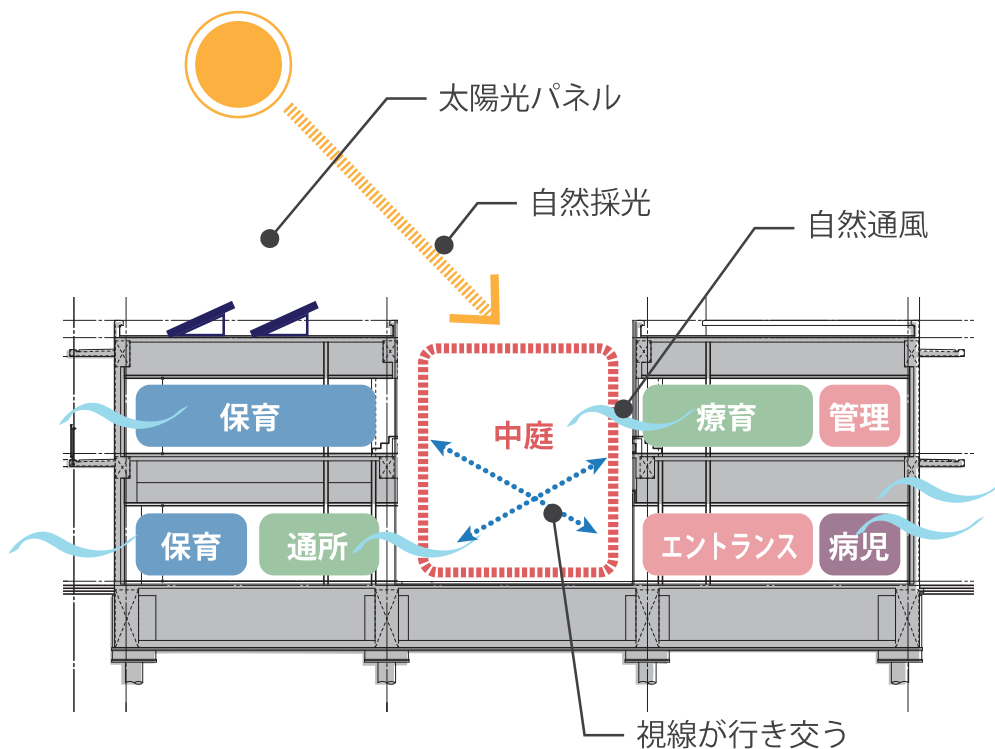
- ・専門性の高い療育を行うための設備を整備
 - ・可動間仕切りにより部屋の一体利用が可能
- 理学・作業療法室

- ・4、5歳保育室は可動間仕切りにより一体利用が可能
 - ・テラスを介し所庭と連結
 - ・成長過程に合わせた衛生設備
- 保育所(3～5歳児)

2階平面図

10. 環境に配慮した設備計画

- 再生可能エネルギー
 - 屋上に太陽光発電を設置し、照明やコンセントへ有効活用します。
- 省エネルギー
 - 中庭やテラスを建物中央に配置することで、自然採光、自然通風が建物全体に取り入れられる計画です。
 - 電力消費低減と環境配慮の観点に考慮した器具による照明計画です。
 - トイレは人感センサーとし、照明の消し忘れを防止します。
 - 各居室は事務室から照明などの操作を可能とし、不要な点灯を削減します。
- 節水対応
 - 節水型器具の採用をしています。
 - 雨水を外構の植栽等への散水に有効利用できる計画としています。



断面ゾーニングイメージ図

11. パースイメージ



参考資料1. 日影図

・日影計算条件：冬至、4時間/2.5時間（測定面4m）

